

# OpenAI内部メモ流出とプロジェクト「シャロットピート」の背景

## 背景：何が報じられたのか

2025年11月20日、IT系ニュースサイトThe

Informationが

「Altman Memo Forecasts 'Rough Vibes' Due to Resurgent Google」というタイトルでサム・アルトマン CEOの内部メモを暴露し、多くの媒体が取り上げた。これによれば、アルトマンは従業員に対し、**Google Gemini 3**やAnthropic、Metaなどの急伸がもたらす短期的な競争圧力を認め、会社が「**一時的な経済的逆風**」に直面すると警告した<sup>①</sup>。メモには、OpenAIの技術的優位が縮小しつつあること、**事前学習 (pre-training) の限界**が明らかになったこと、そしてこの状況を打開するための新モデル開発を示唆する内容が含まれていた。日本でも中央日報日本語版がこのニュースを報じ、アルトマンが「**グーグルは最近あらゆる面で立派な成果を出している**」と認め、短期的な競争圧力の中でも集中するよう社員に呼びかけたと伝えた<sup>②</sup>。

## (1) 流出メモの内容と「シャロットピート」「ラフ・タイムズ」の正体

### メモの核心

- ・**事前学習の停滞** – アルトマンはGoogle Gemini 3が多くのベンチマークでOpenAIのモデルを上回り、Googleの**pre-trainingでの進歩**が顕著だと述べた。OpenAIではGPT-5の開発時に施したスケールング最適化が大規模化すると機能なくなり、事前学習での改善が止まっていた<sup>③</sup>。
- ・**一時的な経済的逆風** – GoogleやAnthropicの進歩によりAPI収益や有料ユーザー増加が鈍化し、競争が厳しくなることから「**短期的な逆風**」を予想した<sup>④</sup>。
- ・**大胆な賭けへの集中** – メモでは「非常に野心的な賭け」に集中する必要があるとあり、研究チームの大多数が**超知能の実現**に向けるべきだと強調した<sup>⑤</sup>。

### 「シャロットピート」プロジェクトとは

- ・メモでは、Googleに追いつくため新しい言語モデルを開発中であることが示され、その**コードネーム**が「**Shallotpeat (シャロットピート)**」だと報じられた。The Decoderはこのコードネームについて「**shallots (エシャロット) は泥炭 (peat) では育ちにくい**」という農業のたとえから、モデルの土台となる事前学習データに欠陥があることを暗示していると解説する<sup>⑥</sup>。目的はGPT-5開発時に発生した事前学習の不具合を修正することで、モデル基盤を根本から再設計する試みである<sup>⑦</sup>。
- ・**Xpert.Digitalの分析**によれば、OpenAIはGPT-4.5以降、**推論強化型モデル (oシリーズ)**へ注力し事前学習を減らしたが、その結果「**基盤モデルの土壌が弱くなった**」。シャロットピートはこの弱い土壌を改良するためのプロジェクトであり、既存モデルの性能を「**表面的なチューニング**」ではなく根本から改善することを狙っている<sup>⑧</sup>。名前に込められた「泥炭で育たないシャロット」という比喻がこの意図を示す。

### 「ラフ・タイムズ (Rough Times)」の正体

「ラフ・タイムズ」は特定の研究プロジェクトではなく、メモの中でアルトマンが用いた表現「**rough vibes**」または「**rough times ahead**」を日本語記事が直訳したものだと考えられる。メモではGoogleの進歩による**短期的な経済的逆風**を「**rough vibes**」と表現し、数カ月間は外部からの評価が厳しいだ

ろうと述べている<sup>9</sup>。これが記事タイトルに組み込まれ、プロジェクト名のように扱われているが、現時点で「Rough Times」というコードネームのプロジェクトは確認できない。

## (2) 「戦略転換か技術敗北か」：スケーリング則と技術的背景

### スケーリング則の限界とGPT-5の課題

- **スケーリング則の限界** – Xpert.Digitalは、従来のスケーリング則（モデルのパラメータやデータ量を増やすことで性能が向上する法則）が「**物理的・経済的限界に達している**」と指摘する。GPT-5では従来の最適化が大規模化すると機能せず、事前学習により性能向上が得られなくなったため、**推論に計算時間を割くo1シリーズモデルへ注力した**<sup>10</sup>。しかしGoogleがGemini 3で従来型事前学習を大幅に改善したことで、この選択が誤りだった可能性が浮上した。
- **混合専門家（Mixture-of-Experts）とルーター問題** – GPT-5は専門家モジュールを選択するルーターを導入したが、初期リリースでは誤ルーティングにより低価格モデルが選ばれて能力が劣るとユーザーが感じる事態が発生した。これにより市場の期待が失望に変わり、“**スケーリングだけではAIを救えない**”との議論が広がった<sup>11</sup>。
- **データ枯渇と限界** – Monitaurの分析によると、GPT-5の進歩が限定的であることは、モデルがインターネット上の高品質データをほぼ消費し尽くしたことに起因する。**新しいデータ源が無ければ大規模モデルの性能向上は難しく、生成データ（合成データ）の利用には品質面の制約がある**<sup>12</sup>。
- **次世代モデルの遅延** – 一部報道ではGPT-5.1の開発が当初計画より遅れ、o1/o3などの推論モデルが先行投入されている。Xpert.DigitalはOpenAIがGPT-5を従来より小さな事前学習予算で開発し、その代わりに強化学習による後処理に依存したため、基盤の脆弱性が残ったと分析する<sup>13</sup>。この影響で次世代モデル（GPT-6や推定されるGPT-7）も遅延する可能性がある。

### Google Gemini 3の衝撃

Googleは2025年11月に**Gemini 3**をリリースし、検索やWorkspaceなど数十億人が使う製品に同時展開した。Googleのブログは、**Gemini 3 ProがHumanity's Last Examで37.5%、GPQA Diamondで91.9%を達成し**、数理推論やマルチモーダル理解でGPT-5.1を大きく上回ったと述べている<sup>14</sup>。Deep Thinkモードでは更に性能が向上し、複雑な問題に対して前例のない推論能力を示す<sup>15</sup>。このようなベンチマーク結果は、従来のスケーリングアプローチでもまだ改善余地があることを示し、OpenAIの技術戦略を揺さぶった。

### Anthropicや他社の動向

- **Anthropic** – Reutersは、Anthropicが2025年9月に**Claude 4.5**を発表し、30時間連続でコード作成が可能な長時間タスクや金融・科学的推論に強みがあると報じた<sup>16</sup>。Microsoftは365 CopilotにAnthropicのモデルを統合し、OpenAIへの依存を減らしている。
- **Meta (Llama / SAM)** – Metaは2025年内にLlama 3およびSAM 3（物体検出モデル）を発表し、エッジデバイスで動作する小型モデルと専門モデルを広げている。これらは大規模言語モデルとは異なるアプローチで市場を分割する。
- **xAI (Grok 3)** – xAIはGrok 3をリリースし、長文読解や検索連携で競合している。Mediumのコラムでは、Grok 3やMicrosoftのOmniParser V2など他社製品が「OpenAIのブラウザエージェントが古臭く見える」と指摘し、OpenAIにとって「ラフな時期」（rough times）だと評されている<sup>17</sup>。

## (3) 「一時的な逆風」の要因と競合比較

### 市場シェアとユーザー数

- **OpenAIの利用者数** – TechCrunchによると、ChatGPTは2025年10月時点で週当たり800万人…ではなく**約800百万の週間アクティブユーザー（WAU）に達し**<sup>18</sup>、前年度から大きく増えた。しかし有料会員率は4-10%程度に留まり、収益化はまだ脆弱である<sup>19</sup>。

- **市場シェア** – First Page Sageの分析では、ChatGPT単体でAI検索市場の約61.0%を占め、Microsoft Copilotを含めると75.1%に達するものの、**Google Geminiが約13.5%、Perplexityが6%、Anthropic Claudeが3.5%**とシェアを拡大している<sup>20</sup>。Gemini 3のリリースにより、この差が急速に縮まることが予想された。

## 競合優位性とOpenAIの課題

- **Googleの構造的強み** – Googleは広告とクラウドサービスで年間3000億ドル以上の収益を上げ、AIに対する投資を短期的な利益を気にせず行える<sup>21</sup>。また自社設計のTPUや膨大なデータを有し、Geminiを検索やGmailに直接組み込むことでパッシブなユーザー流入を得ている<sup>22</sup>。
- **OpenAIの経済的脆弱性** – Xpert.Digitalは、OpenAIが年間約80億ドルを消費し、前年には50億ドルの損失を出したと報じる。トレーニングとデプロイのコストは2030年までに総額約6500億ドルに達すると予測され、収益成長が鈍化すればこの支出を正当化できなくなる<sup>23</sup>。大量の資金調達には投資家の信頼が必要だが、Gemini 3の成功でその信頼が揺らいでいる。
- **Microsoftとのパートナーシップ** – 2025年1月の契約再編により、Microsoftの排他的なクラウド利用制限は緩和された。OpenAIは**Oracleなど他社のデータセンターも利用可能**になり、ソフトバンクやOracleと共同で5000億ドル規模の**Stargate計画**を進めている<sup>24</sup>。11月20日には**Foxconnとの提携**が発表され、OpenAIは米国内で次世代AIハードウェアの設計と製造を共同で行うと発表した<sup>25</sup>。これはMicrosoft以外の調達手段を模索する動きであり、アルトマンが将来の巨額インフラ投資に備えようとしていることを示している。

## (4) 組織構造・資金調達への影響

### 収益モデルと資金調達

- **高額なインフラ投資** – メモでは触れられていないが、報道によればOpenAIは2030年までに**総額1.4兆ドル規模**の計算資源（30 GW）を確保する計画で、Foxconnなどと協力してハードウェアを共同設計している<sup>26</sup>。計算資源の大部分は将来の巨大モデル向けであり、資金調達面でも大きな負担となる。
- **組織の再編** – Xpert.Digitalは、OpenAIが利益を上げなければならない期限を**2029年**と指摘し、投資家保護条項を満たすために組織構造を非営利から営利企業へ転換する必要があると分析する。実際、2025年末にはOpenAIが追加資金調達や構造改革を検討しているという報道もある。
- **研究リソースの配分** – メモは「優先度の低い製品やプラットフォームよりも、研究チームを超知能に集中させる」ことを示し、一部開発者向け機能や小規模モデルが後回しにされる可能性を示唆した。MarketReportAnalyticsの記事は、別のOpenAI幹部が開発者に「技術的な“how（どうやって）”より、“what（何を）とwhy（なぜ）”に集中せよ」と伝えた内部メモを紹介し、これは倫理や社会的影響を重視する組織文化の変化だと分析している<sup>27</sup>。

## (5) アナリスト・専門家の評価：一時的停滞か構造的危機か

- **一時的停滞説** – TechCrunchなどはOpenAIの利用者数が急増していることや、新モデル（GPT-5.1やoシリーズ）が着実にリリースされていることから、**短期的な逆風はあっても依然として業界をリードしている**と指摘する<sup>18</sup>。First Page Sageも、ChatGPTが依然として市場シェアの大半を占めていることを示しており<sup>20</sup>、多くの消費者にとってOpenAIが代名詞である状況は変わっていない。
- **構造的危機説** – 一方、Xpert.Digitalは**GoogleのGemini 3が事前学習で大幅な飛躍を遂げた**ことで、OpenAIの戦略（推論モデルへのシフト）が誤りだった可能性を指摘し、資金調達・インフラ投資の規模から見て「**AIバブルが崩壊するリスク**」と表現している<sup>23</sup>。MonitaurやThe New Yorkerなどのコラムは、GPT-5の改善幅の小ささやチェーン・オブ・ソートの脆弱性を取り上げ、「スケーリング則の終わり」に近いと論じる<sup>11</sup><sup>28</sup>。これらはOpenAIだけでなく**LLM全体の成長鈍化**を示しており、OpenAIが直面する問題は産業全体の構造的課題だとする。

- ・**投資家の視点** – アナリストの中には「高すぎるバリュエーションが根拠を失いつつある」との意見もある。Sequoia CapitalやGoldman Sachsは、生成AI産業が投資額に見合う収益を上げられない可能性を指摘し、AIバブルへの懸念を表明している<sup>29</sup><sup>30</sup>。こうした意見は、内部メモによる弱気な発言と合わせ、OpenAIが構造的な危機にあると見る論拠となっている。

## (6) 公式発表や他のニュースとの照合

- ・**Foxconnとの協力** – OpenAIは内部メモ流出の翌日、Foxconnと次世代AIデータセンターハードウェアの共同設計を行うと正式発表した<sup>25</sup>。メモが指摘した計算インフラ不足を解消するための現実的な取り組みであり、資金調達やインフラ開発が進んでいることを示している。
- ・**GPT-5.1およびCodex Maxのリリース** – 11月12日にはGPT-5.1が、11月19日にはGPT-5.1-Codex-Maxがそれぞれ正式リリースされた。GPT-5.1は「Instant」と「Thinking」の二種類があり、会話の温かみと推論能力を改善している<sup>31</sup>。Codex Maxは長時間・大規模なソフトウェア開発に最適化されたモデルで、効率と性能を向上させた<sup>32</sup>。これらのリリースは、OpenAIがメモに示した戦略転換（oシリーズや専門モデルへの集中）を具体的に実行していることを示している。
- ・**Oracle・Stargate計画** – 2025年1月の契約見直しによりOpenAIはOracleなど他社のクラウドも利用可能となり、SoftBankやOracleと共同で5000億ドル規模の**Stargateデータセンター計画**を推進している<sup>24</sup>。これにより、Microsoft依存が減少し、長期的な計算資源の確保が進められている。

## 統合的な考察

サム・アルトマンの内部メモは、GoogleやAnthropicの進歩に対する一時的な危機感を素直に吐露したものであった。しかし、そこから透けて見えるのは、**スケーリング則の限界、事前学習の停滞、巨額のインフラ投資と収益性のギャップ**という深刻な技術・経営課題である。メモが示した「シャロットピート」は単なる新モデルではなく、従来モデルの基盤を改良する試みであり、研究リソースを超知能に集中させる戦略転換を象徴している。今後の重要なポイントは次の通りである。

1. **技術戦略の再評価** – Gemini 3やClaude 4.5が示したように、事前学習と大規模データ活用にはまだ伸びしろがある。OpenAIはoシリーズによる推論強化と基盤モデルの再構築の両輪で進む必要がある。
2. **収益性と資金調達のバランス** – 巨額のインフラ投資を支えるには、ChatGPTやAPIの有料顧客を増やし、より高付加価値サービス（企業向けコード生成、エージェント機能など）への拡張が必要である。競合が無料・低価格プランを拡充する中で差別化が問われる。
3. **パートナーシップの多角化** – Microsoftとの連携は今後も重要だが、OracleやFoxconnとの協力に見られるように、ハードウェア・クラウドの多様化が不可欠である。これは資本コストを抑え、供給リスクを分散する。
4. **規制・倫理への対応** – 研究者の大量退職や内部告発からも分かるように、OpenAI内部には安全性や倫理面での緊張が存在する。市場競争と倫理的責任を両立するガバナンスが求められる。

総じて、内部メモは「一時的な逆風」で済むか「技術敗北の序章」になるかを分ける分水嶺となっている。Gemini 3やAnthropicの台頭に直面しつつも、OpenAIはまだ巨大なユーザー基盤と研究力を有しており、シャロットピートやoシリーズがどれほど早く成果を出せるかが今後の鍵となる。

---

<sup>1</sup> <sup>4</sup> <sup>9</sup> OpenAI chief Sam Altman's internal memo warns staff of rough months as Google surges in AI: Report | Mint

<https://www.livemint.com/technology/tech-news/openai-chief-sam-altmans-internal-memo-warns-staff-of-rough-months-as-google-surges-in-ai-report-11763790774734.html>

<sup>2</sup> アルトマンCEO、AI競争の困難を吐露…「OpenAI、一時的に逆風もある」（中央日報日本語版） - Yahoo!ニュース

<https://news.yahoo.co.jp/articles/e0cc23e8e231ec7f637dbe78b048fe14120cfaf7>

- 3 5 6 7 As Google pulls ahead, OpenAI's comeback plan is codenamed 'Shallotpeat'  
<https://the-decoder.com/as-google-pulls-ahead-openais-comeback-plan-is-codenamed-shallotpeat/>
- 8 10 13 19 21 22 23 24 29 Project Shallotpeat and < Rough times: Sam Altman's internal memo reveals OpenAI's biggest crisis  
<https://xpert.digital/en/project-shallotpeat/>
- 11 GPT-5 exposes scaling limits, accelerates shift to specialized models  
<https://www.implicator.ai/gpt-5-exposes-scaling-limits-accelerates-shift-to-specialized-models/>
- 12 LLM scaling: Is GPT-5 near the end of exponential growth?  
<https://www.monitaur.ai/podcast/llm-scaling-gpt-5>
- 14 15 Gemini 3: Introducing the latest Gemini AI model from Google  
<https://blog.google/products/gemini/gemini-3/>
- 16 Anthropic launches Claude 4.5, touts better abilities, targets business customers | Reuters  
<https://www.reuters.com/business/retail-consumer/anthropic-launches-claude-45-touts-better-abilities-targets-business-customers-2025-09-29/>
- 17 An Absolutely Wild Week in AI. This week in AI has been a total... | by Brian Rowe | Feb, 2025 | Medium  
<https://medium.com/@indyrowes/an-absolutely-wild-week-in-ai-071395431260>
- 18 Sam Altman says ChatGPT has hit 800M weekly active users | TechCrunch  
<https://techcrunch.com/2025/10/06/sam-altman-says-chatgpt-has-hit-800m-weekly-active-users/>
- 20 ChatGPT Usage Statistics: November 2025 – First Page Sage  
<https://firstpagesage.com/seo-blog/chatgpt-usage-statistics/>
- 25 OpenAI and Foxconn collaborate to strengthen U.S. manufacturing across the AI supply chain | OpenAI  
<https://openai.com/index/openai-and-foxconn-collaborate/>
- 26 Foxconn, OpenAI partner on AI hardware manufacturing | Reuters  
<https://www.reuters.com/world/china/foxconn-openai-partner-ai-hardware-manufacturing-2025-11-20/>
- 27 AI can handle the 'how', OpenAI VP tells engineers to focus on 'what' & 'why': Here's what every developer should know  
<https://www.marketreportanalytics.com/news/article/70829>
- 28 What if A.I. Doesn't Get Much Better Than This? | The New Yorker  
<https://www.newyorker.com/culture/open-questions/what-if-ai-doesnt-get-much-better-than-this>
- 30 Soap 'n' AI | Natural Language Engineering | Cambridge Core  
<https://www.cambridge.org/core/journals/natural-language-engineering/article/soap-n-ai/DE7ABA90CF5DD039DE0071367F09B908>
- 31 GPT-5.1: A smarter, more conversational ChatGPT | OpenAI  
<https://openai.com/index/gpt-5-1/>
- 32 Building more with GPT-5.1-Codex-Max | OpenAI  
<https://openai.com/index/gpt-5-1-codex-max/>